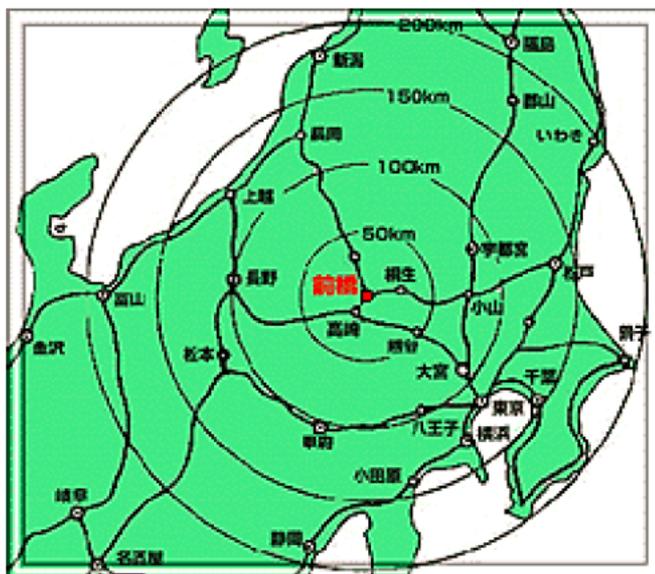


ICT街づくり推進会議 共通ID利活用SWG

前橋市発表資料

前 橋 市



前橋市～水と緑と詩のまち～

群馬県都であり、人口34万人を抱える中核市

近代には全国有数の養蚕基地として名を馳せた「絹のまち」

四季折々の美しい風景を舞台に多くの詩人が活躍した「詩のまち」

本州のほぼ中央に位置し、東西南北の道路網が交わる物流拠点

都心から約100kmの近さと自然災害の少なさから「首都機能バックアップ都市」としての潜在性



高度教育機関が集積する教育環境



全国屈指の施設数を誇る医療環境



実施団体名	前橋市、NPO法人首都機能バックアップ推進協議会、前橋工科大学、前橋商工会議所、九州大学		
実施地域	群馬県前橋市	実施期間	平成25年9月～平成26年3月
事業概要	社会情報認証基盤と共通IDによるICカードを活用し、前橋マイページ、母子健康ポータル、ICTまちなかキャンパスの3つの事業、サービスを市民に提供する。これにより、前橋市の特性である充実した教育環境と全国有数の医療環境をさらに進化させる。		
実証結果	前橋マイページではサービスを「継続すべき」「改良して継続すべき」「対象を拡大すべき」という評価が93% 母子健康ポータルでは同様の評価が88%、ICTまちなかキャンパスでは1枚のカードで様々なサービスを受けられることについて、無回答を除く70%以上の人が「便利だ」と回答した。		

母子健康ポータル

妊婦さん～小学生までの健康管理情報をサーバ上に一元管理

- 健康診断管理
- 成長記録グラフ
- 予防接種
- 日記機能
- おくすり手帳



前橋マイページ

市民一人一人に設けられる市民ページ
今回の実証では小学生お持ちのご家庭をモニターに

- <基本機能>
 - 前橋市からのお知らせ
 - アンケート回答機能
 - 市政モニター・アンケートなど
- <学校関連>
 - 行事スケジュール
 - 時間割表の閲覧・確認
 - 給食情報、アレルギーアラート
 - 学級通信・学年通信
 - 登下校メールなど



ICTまちなかキャンパス

市民講座をICTで管理、発展的活用を

- 講座管理・受講管理
- ウェブ講座
- デジタルアーカイブ
- ポイントシステム



- <市民向けツール>
 - 駐車場空き情報
 - バス位置情報サービス



社会情報認証基盤“VRICS”
セクトラルモデルを用いたID管理、サービス提供システム



※1 個人認証まで踏み込んだセクトラルモデルではなく、複数IDをPIDで紐づけるアプリ運用型のセクトラルモデル。

前橋マイページは、マイナンバー制度におけるマイ・ポータル機能の一部を、教育(小学校)で実現した。結果として、利用者に好評を得た。また、母子健康ポータルにおいても利用者から好評を得た

(判ったこと)

・母子健康情報の電子的な閲覧の利便性

モニターアンケートより「継続すべき」「幼稚園・中学校でも普及すべき」「改善し継続すべき」という回答が88%にのぼった。今後も積極的に使ってみたいという層が多数であった要因としては、スマートフォンやタブレットは普段から持ち歩いているため、冊子を持ち歩かなくても**思いついたときにアクセスすることができ、忘れることなく日記を見たり書いたりできるということへの評価が高かった。**ただし、デイリーに情報更新されるようなコンテンツが少なかったため、サイトの閲覧頻度を下げる結果となってしまった。今後はより**利便性、閲覧頻度の高いコンテンツをプラス**していく必要があると考える。

・教育分野におけるマイ・ポータルの可能性

マイ・ポータルの機能は、教育の分野にも有効なツールである。教育に携わる広い分野での応用とそれを支える教育情報基盤の構築等も検討の価値がある。(本実証実験では、学校と家庭がメインであったが、行政、大学(教員養成)、チューター(補助教員)などを含めた教育関係の情報を共有できる基盤とその利用を想定することができる。)

・有事におけるマイポータルの可能性

実証期間中、インフルエンザの流行、記録的大雪があり、保護者にとって前橋マイページは有効な情報ツールであったことが実証された。マイナンバー制度におけるマイ・ポータルも、災害などの有事において有効なツールとなり得る。**マイ・ポータルの有事における利用**について具体的な利用方法を考えるべきである。

・平時から利用されるサービス提供を

前橋マイページは、保護者が常に利用する情報やアプリケーションがあったため、突発的な出来事においても利用された。マイ・ポータルを有事に利活用するためには、**国民が平時から有効利用するようなアプリケーション**を用意すべきである。

(今回実験できなかったが、今後実証すべきこと)

・将来的な利便性の実証

母子健康情報は、子供が高校生や大学生、成人になった時や、大規模な流行病などが発生した時、事故にあった時などにその真の価値が発揮されることになるが、日常の中ではその利便性を感じることでできないユーザが多い。従って、実証の中での難しいが病院や行政が万が一の重要性を理解し、率先して推進していく必要があると考える。

・共通IDによる学校、行政間連携

今回は、1つの小学校での実証実験であった。進学や転校など、学校が変わった場合の実証を行うことで、児童の情報の管理方法、**学校間の情報のやり取り**、手続き、マイページの利用方法などを具体的に検討して行く必要がある。

(これは、マイナンバー制度における自治体間の住民情報のやり取りにも反映できると考える。)

(情報管理、セキュリティに関する知見)

▪ 共通IDの異なる組織間での利用

今回の実証実験では前橋市が所管する部分と前橋商工会議所の所管する部分があり、それらを共通のIDで管理することにおいて、個人情報管理責任上のハードルが存在した。実験では、マスターDBの共通IDとは別に個別のID、パスワードを発行することで統一的なサービスを提供したが、将来に向けて**広く共通IDの利用を促す際には、技術的なことよりも制度的な部分の整理**が必要になると考えられる。

▪ 情報セキュリティと利便性のバランス

番号カードによる官民連携では、JPKI(電子署名、利用者証明)を利用することによって可能であるが、民間利用にあたっては総理大臣の認める民間事業者に限られている。従来の住民基本台帳カードと比較すると大いに利便性は向上するとしても、対象は限定的にならざるを得ないとする。今回、前橋しくプロジェクトでは、番号カードを用いた官民連携の可能性を実証するに当たり、もっと自由に個人認証を使ったサービスを行える可能性について実証実験を行った。即ち、学校アプリやまちなかキャンパスではJPKIを用いるほどセキュリティレベルは高くないので利便性を重視したものを想定して行った(ID/PWでもよいレベルかもしれないが、ユーザにとってもサービス提供者にとっても使い勝手がよい)。なお、**母子健康情報についてはJPKIを使う候補**として検討すべきと思われた。

(共通IDのさらなる拡張のために)

▪ 医療に分野における検討

医療というテーマについて、今回しくプロジェクトでは母子健康情報から取り組みを始めたが、今後も、医療、健康分野は大変重要なテーマであり、拡張の余地が大きいと考える。前橋市では前橋市医師会等との連携で、電子お薬手帳、救急時の活用、ガン特区との連携による先進医療連携、メディカルツーリズム、患者の共通ID管理など、今後もさらに広い分野の活用を検討していく予定である。また、広い意味では在宅医療、介護、福祉、という部分とも関連するが、これら情報も**共通IDによって一元管理**されれば利用者にとっても利便性が高く、管理効率の良いトータルシステムの提案も可能であるとする。

▪ 交通、金融分野における検討

ICカードを常時携帯していただくには、交通、金融分野における検討も有効である。交通では共通バスカード、デマンドタクシーなど市民の足に直結する仕組みについて議論が始まった。

また、金融では銀行のキャッシュカードとしての活用、クレジット機能の付加など決済の仕組みを持たせることができるとさらなるカードの価値、あるいはサービスの幅が広がるものとする。

	H24年度補正予算	拡張
母子健康ポータル	乳幼児、小学生に限定して実施	対象を成人やご高齢者に広げ「生涯健康ポータル」へ
お薬情報管理	QRコードを使った共通ID管理を実施	KDB連携による自動連携とジェネリック推奨機能などの追加
PHRの取得	一部のモニターで体重、血圧のバイタルデータを取得	市販機器との連携による取得項目の拡張と情報活用による保健指導と介護予防へ
乳幼児医療助成受給証	×	共通IDによる資格確認へ
地域医療連携 (共通診察券)	×	共通IDによる情報管理と病院間連携



前橋市の取り組みにおける「医療連携」

これら事業を実施するための母体として・・・

地域協議会

- ・連携自治体
- ・拠点病院
- ・医師会(県、前橋市)
- ・薬剤師会
- ・歯科医師会
- ・NPO 等

広域連携

<連携先自治体案>

- ⇒(県内)前橋市、群馬県、沼田市、渋川市
藤岡市、富岡市、吉岡町、榛東村 等
- ⇒県外自治体とも連携を検討中

マイナンバーカード



“個人番号”
= 12桁の数字



各種行政事務に活用

“公的個人認証”
= マイナンバーカード内にある
認証機能



空き領域を活用し(要条例改正)、医療連携、
その他行政サービス、共通バスカード、ボランティア
アポイントなど様々なシーンに活用

医療連携

- 生涯健康ポータル
- お薬情報管理
- PHRの地域共通ID管理と保健指導
- 乳幼児医療助成受給者証
- 患者の地域共通ID管理（共通診察券）

広域連携

<連携先自治体案>
 ⇒(県内)前橋市、群馬県、沼田市、渋川市、藤岡市、富岡市、吉岡町、榛東村 等
 ⇒県外自治体とも連携を検討中

地域協議会

- ・連携自治体
- ・拠点病院
- ・医師会(県、前橋市)
- ・薬剤師会
- ・歯科医師会
- ・NPO 等



既存行政事務の効率化

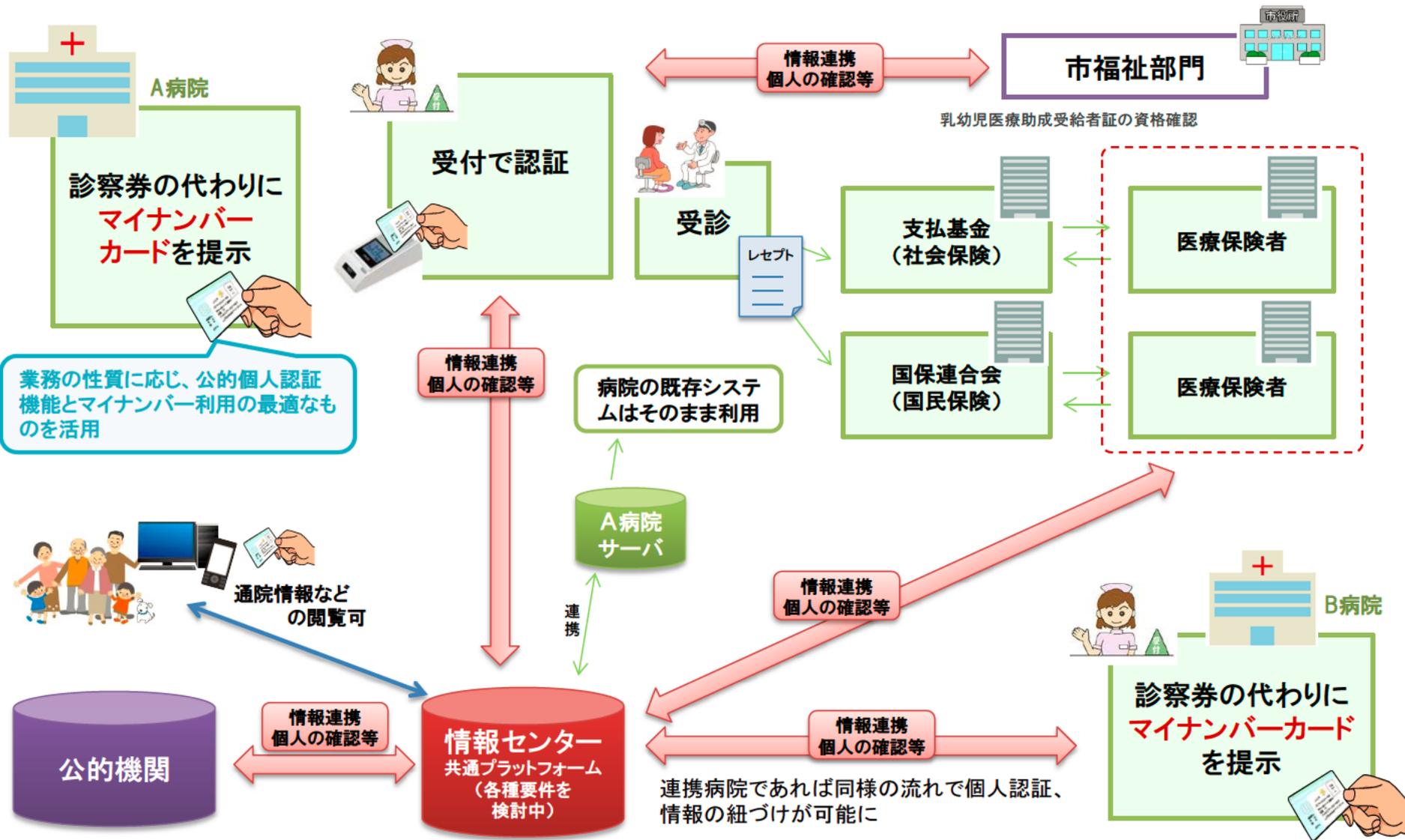
- 印鑑証明
- 住民票のコンビニ交付
- 施設予約
- 図書館利用カード

地域経済の活性化

- 共通バスカード
- ボランティアポイント
- 金融機関との連携

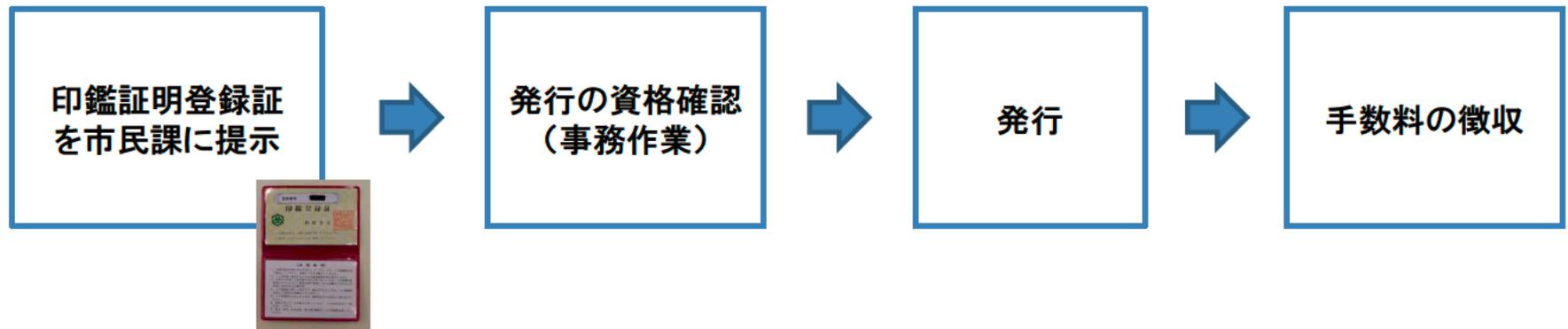
! これら、カードの多目的利用のために条例の整理を行います。

- 共通IDを使った複数病院における医療情報連携
- 保険番号、乳幼児医療助成受給者証など地域共通IDによる受給者資格確認利用

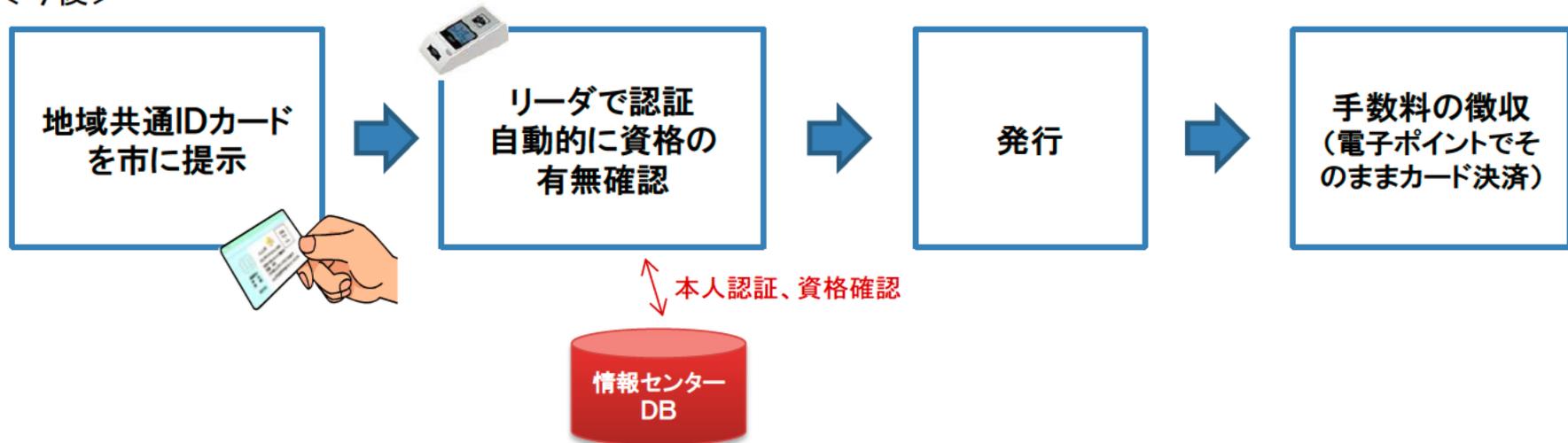


- 印鑑証明の発行時における身分確認
- 内部事務の効率化（住民票コンビニ発行、施設予約、図書館利用等）

<現状>



<今後>



- バスカードとして利用
- ボランティアポイントなどの蓄積と利用

バス利用時



乗車時にカードをかざす



降車時にカードをかざす



ポイント加算



ボランティア
ポイント



ヘルスケアポイント



市の指定する事業に参加することでポイント
を加算することができるなどを検討

ポイントチャージ



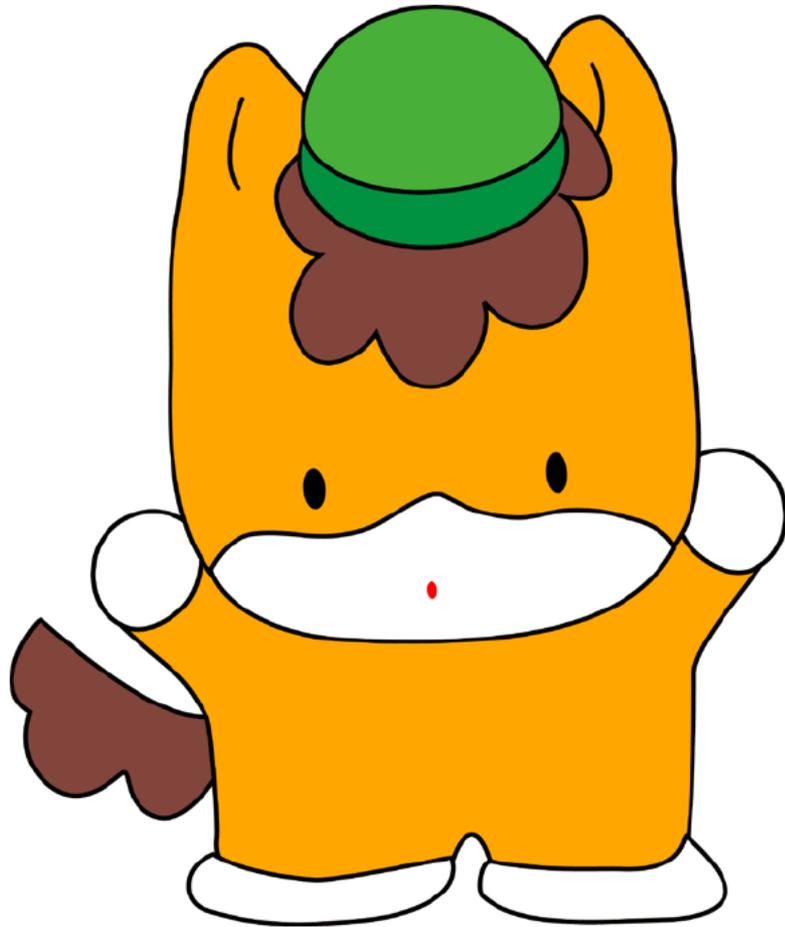
ポイントチャージ

情報センター
DB

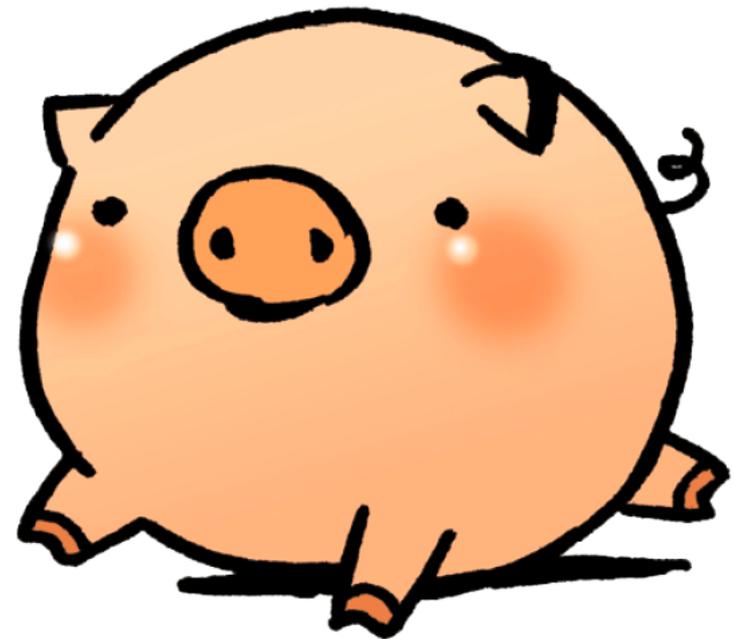
ポイントの閲覧、確認



ありがとうございました！



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」



TONTONのまち前橋のマスコットキャラクター「ころとん」